

令和6年5月16日戸田市児童福祉審議会口述

2ページより口述

会議の名称	令和6年度第1回戸田市児童福祉審議会
開催日時	令和6年5月16日(木) 午後2時00分～午後3時20分
開催場所	戸田市文化会館 304会議室
会長等氏名	会長 坪井 瞳 副会長 長林 美穂
出席者氏名 (委員)	宮澤 浩二 細田 義和 伊藤 寛幸 金子 秀富 春沢 典子 渡部 京子 星野 正義 酒井 茂樹 志村 恵美子 坪井 瞳 長林 美穂 伊藤 愛美
欠席者氏名 (委員)	白土 尚生、青木 真由美
事務局	秋元部長 高橋次長 矢ヶ崎室長 林課長 工藤課長 石原課長 福田課長 佐藤課長 田村課長 西山主幹 植野主幹 長谷川主幹 中島主幹 菊池主幹 坂本主事 富田主事
委託事業者	地域計画株式会社 埼玉支店 福田 圭一
傍聴人	1名
議 題	【議題】 (1) 戸田市の現状と子育て施策について (2) こども大綱について (3) こども計画策定に向けて (4) こども計画策定に向けたスケジュール案について 【諮問】 (1) 戸田市こども計画
会議結果	1 原案、承認 2 原案、承認 3 原案、承認 4 原案、承認
会議経過	別添のとおり
会議資料	令和6年度第1回戸田市児童福祉審議会会議次第 (1) 戸田市の現状と子育て施策について (2) 「こども大綱」について (3) 戸田市こども計画(仮)の策定に向けて (4) 計画策定スケジュール(案)
議事録確定	令和6年7月8日 会長

発言者	発言・議題内容・決定事項
事務局	<p>【 開会 】 開会。</p>
会長	開会挨拶。
事務局	<p>ありがとうございました。 これから議事に移る前に、今回新たに委員となられた方が3名いらっしゃいますので、事務局よりご紹介させていただきます。事務局よりお名前を読み上げますので、挙手をお願いいたします。 令和6年4月1日より、より新たに委員となりました、 埼玉県南部保健所の代表、保健予防推進担当課長 <small>わたなべきょうこ</small> 渡部京子様です。 戸田市立小・中学校校長会の代表 新曽北小学校校長 <small>ほしのまさよし</small> 星野正義様です。 最後に本日欠席となっておりますが、埼玉県南児童相談所の代表、<small>しらと</small> 白土 <small>ひさお</small> 尚生様です。 どうぞよろしくをお願いいたします。</p>
事務局	事務局職員につきましては、今年度より新たに親子健やか室、矢ヶ崎室長が転入となりましたので、一言ご挨拶をお願いいたします。
親子健やか室長	(室長挨拶)
事務局	<p>ありがとうございました。その他、課長職以上の職員につきましては、異動等ございましたので、割愛させていただきます。 また、今年度は後ほど説明いたします「こども計画」の策定を1年間かけて実施することとなり、当審議会で審議いただくこととなります。計画策定に係る業務の受託業者である地域計画株式会社の福田様にご出席いただいておりますので、ご報告いたします。</p>
事務局	<p>【資料及び出席委員の確認】 資料の確認 本日出席されている委員は12名であり、全委員の過半数を超えていますので、戸田市児童福祉審議会条例第6条第2項の規定により、本会議は成立していることをご報告いたします。 なお、本日、傍聴人の方が1名来ております。</p>

	<p>戸田市附属機関等の会議公開に関する指針に基づき、本審議会は、原則公開とし、会議公開基準を設けております。傍聴の手続きを経て、傍聴人の守るべき事項につきましては、事務局より説明済みでございます。</p>
事務局	<p>【 議事 】</p> <p>それでは、議事に進みたいと思います。</p> <p>条例 第4条 の規定により、会長は、会務を総理するとありますので、ここからの議事進行を会長にお願いしたいと思います。</p> <p>それでは、会長、よろしくお願いいたします。</p>
議長（会長）	<p>それでは、傍聴人が来られているとのことで、傍聴を許可することといたします。</p> <p>それでは、議事に移ります。</p> <p>では、議題（１）戸田市の現状と子育て施策について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><子育て支援課></p> <p>資料1に基づいて、説明。</p>
議長（会長）	<p>皆様、何かご意見、ご質問等ありますか。子育てをどう支援していくかということで様々な施策を計画したり実際に実施したりしているものもあると思いますけれども、子育ての当事者としてというところで、伊藤委員、何かご意見等ありますでしょうか。</p>
委員	<p>16 ページ掲載の福祉保健センターにおける親子で集える居場所作りに非常に期待しています。</p>
議長（会長）	<p>身近で、近くて、かつ選べるっていうことは利用者にとって、ここしかないじゃなくて選べるっていうことはすごく大きな選択の幅が広がるっていうことで、とても良いことだなと私も感じております。</p>
事務局	<p>こちらにつきましては、工事が9月頃から着工する予定でございます。年度内には出来上がる予定ですが、遊具を2つほど置いて、インクルーシブ遊具という障害の方も遊べるような遊具を検討しております。そのほかにも福祉保健センターの調理室を、こども食堂として開放で</p>

議長（会長）	<p>きればと考えているところでございます。以上、補足でございました。</p> <p>たくさんの居場所が加わって、さまざまな場所が親も子も選べるということはとても大きなことかなと思います。</p>
委員	<p>戸田市で保育園と認可外保育園と学童を運営しているのですが、ここ近年感じることは、働く女性の支援ということで立ち上げたのですが、働き方が多様化していて日曜日に保育ができないのかという問い合わせがこのところ非常に増えてきています。</p> <p>この間、市の方にお聞きしたところ、一つしか保育園が日曜日対応していないということで、現実、お断りしているご家庭が多いと聞きました。</p> <p>うちの法人としましては、日曜日保育を展開していこうと考えているのですが、それについて、戸田市の方でどのくらいの需要があって、例えば日曜日に開室をする場合には施設の方に保育士とか当然入れなければいけないので、補助とかの考え方があるのかどうかをお伺いしたいと思います。</p>
事務局	<p>本市の休日保育につきましては、戸田駅前のこだま虹保育園で実施しております。確かに戸田市の地域柄、日曜日働いていらっしゃる方がいるということで日曜日保育を実施しております。ある程度の定員の中で大きな混乱もなく実施しておりますが、またそういったニーズを把握しながら、色々と検討させていただきたいと思います。休日保育につきましては、認可権がある県の方に申請をする作業がございますので、それは別途またご相談させていただきたいと思います。</p>
議長（会長）	<p>今回、こどもの意見の反映というところも国の方の施策でとても大きな取り組みになっているかと思いますがけれども、こどもの意見をどう聴取するかということなども様々な工夫が必要かなと感じております。</p> <p>実際に皆様お子さんに関わっていらっしゃると思いますけれども、宮澤委員、例えば子ども会などではこどもの意見をどう聴取するかなど、もうすでに色々と実践等されていますでしょうか。</p>
委員	<p>戸子連では、5年生だけに限ってしまいましたが、5年生のリーダー研修会員といって、5年生からその研修会に参加する子を募りまして、半年間くらいですが日曜日に集まって、体験学習をするということを行っております。戸田市内、全12校の学校から子ども達が来ていますので、普段の学校のクラスの子たちではない子との意見の交流ですとか、一緒に力を合わせて何かをやるということをやっております、</p>

議 長（会長）	<p>その場でこども達の色々な意見や他の学校の活動を知るといような、そんな取り組みはやっております。それが中学生、高校生になって生かされればいいなと思うような活動はしております。</p> <p>自分の意見を言う場所であったり、もちろんそれは先生方が聞くという、聴取するという姿勢であったり、機会を設けてらっしゃるところは、とても大きな経験として、これからこども未来会議であったり、意見を募る際にも活用できることなのかなと感じております。計画を具体的にしていく中でよりご意見等いただければというふうに感じております。</p> <p>以上、戸田市の現状と子育て施策についてというところでご説明をいただきました。</p>
議 長（会長）	<p>続いて、「こども大綱」について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><子育て支援課> 資料2に基づいて説明。</p>
議 長（会長）	<p>こども大綱が示されているもので、何か確認をしたいこと等ございますでしょうか。これを具体的に戸田市でどのように計画していくかが次の議題になっていきますので、続きまして戸田市こども計画（仮）の策定に向けてという議題につきまして事務局からご説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p><子育て支援課> 資料3に基づいて説明。</p>
議 長（会長）	<p>計画策定していくに当たりまして調査に基づいて行っていくということで報告書等いただいておりますが、こちらの調査の対象者が小学生の保護者、あとはこども自身等、主にこどもと保護者が調査の対象になっているかと思うのですが、いま国の方でも最初の100か月プロジェクト等で支え手である保護者はもちろんですが、保育者や現場に関わる支援者たちへの支援というものも必要ではないかという方針なども国の方から示されておりますが、実際にこどもや家庭を支えている、まさに今日ここにいらっしゃるメンバーの皆様からの意見聴取ということは、市の方では何か考えていらっしゃいますでしょうか。その点についてお教えてください。</p>
事務局	<p>実施した調査につきましては、計画の量の見込み、どれだけの体制を構築するのかという観点から実施したものとなります。いわゆる事業</p>

<p>議長（会長）</p>	<p>者の方々につきましては、パブリックコメントを全体的にかけて、その意見を踏まえるというような流れになります。</p> <p>そうすると、パブリックコメントの方から色々と意見をいただいくという形で考えてらっしゃるということですね。かしこまりました。</p> <p>ただ今日、せっかくですので各団体の代表の方々がいらして下さっていますので、これから計画をより良いものにしていくために簡単に一言ずつで結構ですので、今後、よりニーズに沿った計画を立てていく上で各団体として、どのようなことに力点を置いてこどもの支援に関する計画をしていけばいいかということについて、いま感じている肌感覚でも構いませんので、お一人ずつ現状に対する課題、今後の支援の中でどのような点に力点を置いていけばいいかということについて、簡単にお一人ずつお教えいただけますでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>私たちの法人では、母子生活支援施設、保育園、学童クラブを運営しておりますが、やはり職員を採用するのがなかなか大変でございましたけれど、その部分では市として、とくに保育の部分については知事の方にも市長から上げていただいたと思うのですが、地域全体としても公定価格が低く設定されているということで、戸田を飛び越えて行ってしまうという問題が支援者としてはあって、職員の入れ替わりがやはり非常に多くて、そのことが安定した保育の供給ということがなかなか難しくなるなあとということが常に思っていることです。</p> <p>それはそうとして、私たち母子生活支援施設を運営させていただいているのですけれども、市内からのケースが非常に少なくなっていて、市外、戸田市以外のところから来る方が増えてきて、もう少し市内のケースでも何か一緒に出来ることはないかなと思っております。</p> <p>学習支援なども行っているのですが、こどもの居場所という点では地域の方に私たちの事業を通じて生活支援施設というのでも伝えております。</p> <p>引き続き、私たちも含めて皆さんのお力も借りながらできたらなと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>市内の私立幼稚園協会を代表して、考えを述べさせていただきます。</p> <p>いま多様化という形で、こども達を取り巻く生活、親の躰、文化といったら大げさかもしれませんが、育て方というのが多様化していると。それと、個人の尊重ということでそれが保護されていて画一的ないわゆる子育てから保護者主導の考えに基づいた子育てというものに移り変わっております。</p> <p>ですから統一的な見解がない中で、それぞれのことを尊重して対応し</p>

委員

ていくというのが現場では非常に難しい。こういうルールでしていかないと集団生活が難しいと訴えましても、なかなか個人の主張を否定するということにもなりますので、その辺の難しさですね。

あと、5年前や10年前から比べて加速的に社会が変化しているというところがあります。とくにここ5年間でいくとコロナで地域コミュニティ、ものの考え方すべてが劇的に変わってきていると。それに基づいてのコロナ明けの対応という形で、私たちも事業の取り組み等についても改めてゼロから考えていくとか、あるいは保育等の進め方、保護者の考え等の取り入れ方など、色々なところをふまえて対応していております。

要は、アンケートはあくまでも過去の結果でありますし、全てを踏まえていない。このことからより広い中で意見を吸い上げていただいて、当面5年の計画とされておりまけれども5年後のこども達の姿、あるいは戸田市の姿をみんなで共有しながら、こども達が一人でもセーフティーネットから外れることのないようにしていきたいと思っております。

先ほどの市の施策について児童数、利用者数というようなパーセンテージからいくと、きっかけにはなりますけれども、それが全てのこども達を救うというところまでいくというにはたぶん難しいと思っておりますので、ぜひそういった多様な意見を吸い上げてそれぞれ個別にきめ細かな対応をしていただけたらと思っております。

保育園と学童の両方の現場で共通している問題点としましては、発達障害のお子さん、学習障害のお子さんが小学生でいま8.8%と聞いておりますが、グレーゾーンも入れると10人に1人くらい10%くらいにはなっているのかなと感じます。それに対して、保育士とか学童支援員のその子達に対する対応が、まだ全然、未知数でわからなくて、研修会とかもあちらこちらでやっているのでも参加させていただいているのですが、研修会の質自体も現場に沿った対応でなく、やはり働く人たち、保育士たちもそこら辺の不安もあって、地域の問題もあるのかもしれないけれども、若者たちは現状のこども達の対応について、障害があるのではないかなという時に保護者さんにどう伝えたらいいのかとか、それも専門性がないので伝えられないとか。働いて色々悩みを持っている方で離職する保育士とか学童支援員が多いと思っております。入る時は一所懸命、賃金よりもやる気を持って入るのですが、保護者さんのクレームであるとか、保護者の方達も学習障害、発達障害のお子さんを持っていると不安で先生たちにどうしたらよいかということで聞いてくるのですが、私たちもそこに対しての専門性がまだまだないので、やはり現場が大変になるということでもいち早く加配をしていただきたい。

委員	<p>それと、いまNPO法人や財団法人など、民間なのですが、認定をするようなシステムが動き始めています。そのようなシステムを研修会などで入れていただいて、現場の保育士たちが自信を持って保育ができるようにスピードのある対応を現場としては求めたいと思っております。</p> <p>私自身、まだ子育てもしていますが、子ども会ですとか地域で居場所づくりとか、こどもに接する活動が増えてきています。</p> <p>こどもの意見を述べやすくするという、その環境を作っていくというには自分にまず何ができるかと考えた時に、自分自身が目の前の子の安全基地というか、この大人だったら信頼できるかなという関わり方ができるように、まず自分自身、あと周りの大人たちが意識改革というか子育てやっていくという、とくにスキルとか学びとかはまだ少ないのですが、地域の大人たちがまず変わり、目の前のこども達にどうするかという文化というかそういうものを自分が住んでいるエリアからやっていけたらいいなと思っております。</p>
議長（会長）	<p>住民の意識というものも大切だということですね。ありがとうございます。</p>
委員	<p>学校現場の方ですが市全体で、コロナで大きく変わっているというところがあります。不登校、長期欠席のお子さんが劇的に増えているというところが一点ございます。その後は登校しぶり、朝泣きながら登校するこども、保護者が教室まで一緒に来ないと教室に入れないというこどもが増えているのかなというのが市内共通している課題なのかなというところです。</p> <p>また、学校の方で共通での課題は、特別支援学級に入る判断がおりない、でも通常学級では学習面や情緒的に厳しいなというこどもについて、保護者の意識と学校の教員側の意識とはかなりずれがあって、そこをどう埋めるかといったことやその子達の居場所をどうするかといったところに非常に苦労しております。</p> <p>もう一点は、保護者の方の中には正直、学習の場とか教育の場という認識が薄い方がいるところがございます。そういう傾向がコロナ明けから強く感じています。</p> <p>こどもにとっては、どういう居場所を作ってあげられるのかなというところで、むつみ会さんとも連携しながら、学校は最後の砦だと思って教員は覚悟を決めて、こども達にとって学校だけは安心できる居場所であり続けるということで、すごく献身的に取り組んでくれていますが、それでも追いついていけない部分があり、市独自として、もし可能であれば第三の居場所ではありませんが、学校の中に通常学級と</p>

	<p>特別支援学級とその中間にあるような、そういう居場所みたいなものを作れるといいのかなと考えます。</p> <p>市が実施するパレットルームは不登校児を対象としているため、情緒的にか知的にというのとは対象が異なるので、その子達の居場所をどう用意してあげるのかというところを学校としては苦慮しているところですよ。</p> <p>また、個人的に少子化ということでは、もっと若者とか未婚の世代にスポットを当てる必要があると考えます。今の若い人たちは、将来やこれから先に不安を抱えているところがあるので、子育て世代に行く手前の世代をどう支援していくのか、将来に希望を持たせてあげることかということを実際に考えないとなかなかこどもが増えないのではないかと考えます。</p>
委員	<p>P T Aとしましては学校や地域の皆様と一緒に連携をしながらより良い成長の場を作って行けたらなと思っております。</p>
委員	<p>私はどちらかということ子育てをサポートするボランティアですとか、社会福祉協議会はファミリーサポートセンターも受託しておりますので、どちらかということ支える側の視点でお話をさせていただけたらと思うのですがボランティアについて 10 年ほど前から、担い手不足の状況となっております。特にこども関係のボランティアは当事者としてご自身が子育てしている間に支援員の子も一緒に面倒みたい、一緒に何かしてあげたいということでボランティアをされていた方が、お子さんが中学、高校といく中でお金が厳しくなり、ボランティアから離れていくということが非常にあります。今後、担い手の育成というのは非常に大きな課題なのかなと思っております。</p>
委員	<p>南部保健所の渡部と申します。妊娠期特定妊婦からの色々な計画を立てていくってことですよとか出産後のケアの充実をはじめ、こどもの意見聴取など、すごく楽しみにしております。</p> <p>保健所の方からは、連携ってところを充実した内容にさせていただければありがたいなと思っております。</p>
委員	<p>私たちは民生委員の中で活動していますが、官と民の中間的立場だと思えます。</p> <p>結局、官は官、民は民で今までやってきたものが、最近やっと連携をし始めているところだとは思いますが、それを私たちも協力してより進めていけたらなとは思っていて、色々なところにご報告なり意見を発信させていただいているところです。</p> <p>そういうところと関係をスムーズに上手く保てて、子育ての環境を良</p>

委員	<p>くしていくために、この5年間の計画ができていくのかなと思っております。</p> <p>私たちの中では不登校やヤングケアラーなどを課題としてとらえています。その子達ってというのは社会との関わりが薄いというか、なかなか意見をもらおうと思って取りづらいと思うのですが、ぜひ市役所や学校が注目して、そういう子どもや保護者の意見を吸い取っていただけたら良いかなと思っております。</p> <p>我々は子ども会ですので、学校とか幼稚園、保育園とはちょっと立場が違って、地域のコミュニケーションには保護者の方の理解がかなり必要だと考えます。子どもがいなくても子どもたちの色々なボランティアをやっている方もおり、皆で支えるというようなことが地域の子ども達を支えるという取り組みも必要ではないかなと思っております。</p> <p>昔は小学生ばかりを集めて何か行事をやっていましたが、今、戸田市でも中学生や高校生を子ども会に巻き込んで、子ども達の行事をやる時には中学生・高校生に小学生の子ども達の指導をしてもらうという取り組みを始めています。</p> <p>中学生・高校生が指導してくれるというのが、子ども達にとってもそうですし、中学生・高校生とのつながりを持つという面で良い結果が出ているのではないかなと思っております。そのつながりがこれからの街を作っていくということで、自負しております。これからも続けていきたいし、ぜひ広めていきたいなと感じています。</p>
副会長	<p>先ほどの、子どもまんなか社会ということで動き始めたものですが、子どもというところは0～18歳を対象にしたものだと思いますが、果たして18歳の子が0歳の子と関わることができるのかとか、0歳児のことを知る機会があるのか、という、本当に色々な具体的な活動が必要になってくるのではないかなと思います。</p> <p>先ほどの、子育てをしていく、結婚をしていく、出産をしていく世代の方達を対象にした施策がたくさんありますが、その前の段階の方達が「子育てしやすいね、良いね、結婚もできるね」と、戸田市しかないではなくて戸田市がいいねと、戸田で子育て、出産をしていきたいねと思っていただけるような施策を作っていくということでスタートしたこの計画だと思います。</p> <p>保育園も0歳からお預かりしていて、そこで小学校に向けて育てているので、子どもを安全に見守って育てていくという部分では、みなさんと一緒の部分だと思っていますので、ぜひ保育園での取り組みや地域でのつながりをより強固にしていきたいなと思っております。</p> <p>そうすることによって、保護者、保育所、事業所、地域が、本当の意味での共育ちにつながって、そこが少子化の打破や子育てしやすい戸</p>

議長（会長）

田市という魅力ある市につながっていくと思いますので、色々なつながりを大切に勉強して頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

ご参加してくださっている委員の皆様、ご意見どうもありがとうございます。それぞれの代表でいらしてくださっているということもありますし、多層的なご意見をいただけたという風に思っております。こども計画というと、こども自身とその保護者家庭というところに視点が行きがちですが、実はそこには様々な支え手や役割があるということも先生方のお話を伺っていてとても痛感するところですし、やはりこどもと家庭というものを真ん中に置いたときに、まずその外には支援者がいて、教員、保育者、様々な支援者がいて、そこにはやはり支援者の確保だったりとか質の向上だったり、そういうような課題もあるかと思えます。

そもそも支え手として、支えるこども達もいま多様化しているというところでご意見たくさんいただきました。

やはり、多様なニーズと簡単にいいがちですが、いま出ただけでも障害・健常の二分だけではなく、そこにはグラデーションがあって、コロナの関係で不登校や登校しぶりが増えたり、保護者のメンタルの課題のあるご家庭があったり、ヤングケアラーであったり、あとは障害とは診断が下りていないけれどもいわゆるグレーのお子さんであったりとか、そのグラデーションっていうものこそが多様なニーズの具体的な姿なのかなという風に思えます。

ですので、そのグラデーションをどう捉えて計画の中で、実際にどのような支援として計画していくのかということ具体的に示していくということ、かつ、支援者っていうものが、今どういうことに対応していかなければいけないのか、そのためにはどんな力が必要なのかっていうこと、そこを支えていくということですね。

あと、やはりそこで機関としての連携というものが必要になって、そこはこども関連のことだけではなくて、少子化っていうこと自体、すでに雇用の問題とか社会保障の問題とか、様々な社会全体の課題っていうものと子育てをどう関係性を見ていくか。そこでどう子育てに希望が持てる社会にと、もうここ10年以上言われておりますけれども、それをどう作り上げていくかっていうところ。本当に、同心円状にこどもと家庭を支えていくためには様々な市全体として、そして県や国の力も借りながら具体的な計画を立てていくことが必要であると痛感しました。

そこでは官と民と一緒に連携していくこと、やはりハードを整えるだけでは形だけになって形骸化しますので、ソフトである人をどう支えて共に育てていくか。それこそ先ほどおっしゃってくださった戸田で

	<p>良かったと思われるような子育ての環境というものを、計画の中でより具体的に見せていけるかというところが、今回の計画を立てていく中で大事な視点をいただいたなという風を感じております。</p> <p>素案は事務局の方で作っていただけのと思いますが、その素案をどう具体的により見せるものとして、そして実行可能性があるものとして実現していくかということに関して、こちらの審議会が大きな役割を果たすと思いますので、またどうぞ引き続き各立場の見地から様々なご意見をいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
議長（会長）	<p>続いて、計画策定スケジュール（案）について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p><子育て支援課> 資料4に基づいて説明。</p>
議長（会長）	<p>事務局から説明が終わりましたので、何か質問等ございますか。</p>
委員	<p>第一期・第二期計画を加えた上での第三期という位置づけにこども大綱あるいは、この5年間で法律改正があって、それを取り入れたものにしていくという位置づけでよろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、その通りでございます。</p>
委員	<p>そうしますと、5年間でいわゆる達成目標の未熟なもの、そういったものを全部洗い出して、出てきた内容のものを加味して取り組むということによろしいでしょうか。</p>
事務局	<p>はい、第二期の振り返りにつきましては、7月25日第2回審議会の時に事業計画進捗・評価で課題等を洗い出しまして、その洗い出したものを次の初稿の時に反映させていくというようなスケジュールを考えております。</p>
委員 議長（会長）	<p>はい、分かりました。 ありがとうございました。</p>

事務局	<p>【 諮問 】</p> <p>最後に、「こども計画」の策定にあたり、児童福祉審議会への諮問を行います。諮問に際しまして、本来であれば市長から戸田市児童福祉審議会坪井会長に行うところではありますが、市長は公務都合により本日不在でありますことから、こども健やか部 秋元部長より行わせていただきます。</p> <p>それでは坪井会長、よろしく願いいたします。</p> <p>(諮問文書手交)</p>
議 長 (会 長)	<p>本日予定されていた議事は以上になります。本日の議事をこれにて終了いたします。</p> <p>それでは、進行を事務局に返します。</p>
事務局	<p>【 閉会 】</p> <p>それでは、閉会のあいさつを長林副会長よりお願いしたいと思います。</p>
副会長	<p>(副会長挨拶)</p>
事務局	<p>次回は、7月25日(木) 午後2時～戸田市役所5階 501会議室での開催を予定しております。</p> <p>本日は、長時間にわたり、慎重なご審議、ありがとうございました。</p>